

あおぞら

行方市 社協だより

No. 18 2010. 9. 1

— 発行者 —
社会福祉法人
行方市社会福祉協議会

住所 茨城県行方市玉造甲403番地
☎ 0299 (36) 2020
FAX 0299 (55) 4545
URL <http://www.yokattanet.jp>



行方市ボランティア連絡協議会総会及び研修会の様子
(詳しい内容等、関連記事につきましては、6～7ページに掲載しています)

目次

P 2	平成21年度事業報告及び決算報告	P 8	緑ヶ丘地区三世代交流会
P 4	いきいき長寿者紹介	P 9	行方市障害者地域活動支援センター「ドリームハウス」
P 5	行方市ボランティア連絡協議会	P 10	お知らせ
P 6	総会及び研修会	P 11	善意銀行・編集後記
P 7		P 12	

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し 平成21年度次のような事業を実施しました。

会員数

◆一般会員 8,416 世帯 賛助会員 292 世帯 特別会員 128 事業所

善意銀行運営事業

◆市民の皆さんの温かい善意の寄付金や物品をお預かりしています。寄付された金品は寄付者の意思に添った福祉事業等に使用させていただいております。

広報啓発活動

◆ホームページ「よかったネット」の管理運営及び社協だより「あおぞら」(年4回)の発行を行いました。

相談事業

◆法律相談所の開設

弁護士による無料法律相談所を開設しました。
毎月2回開設 相談件数 99 件



福祉体験事業

高齢者福祉事業

◆高齢者サロン事業

高齢者が生涯健康で生きがいを持って社会活動できるよう健康・生きがい作りに関する事業及びリーダーの育成並びに引き籠もり防止や交流事業を実施しました。

◆ふれあい広場事業

健康体操やレクリエーションをとおり、高齢者の健康づくりを目的とし実施しました。5カ所(麻生公民館・太田地区館・小牧農村集落センター・西浦学習センター・小高地区館)延べ45回 合同開催1回 延べ1,800人参加

◆いきいきゼミナール事業

高齢者を対象にいつまでも健やかに、いきいきと自分らしく毎日を過ごせるよう介護予防体操教室を実施、理学療法士による専門的な指導、行方市シルバーリハビリ体操指導士会講師の協力により実施しました。(平成21年度実施地区 2地区)

内宿 23回 延べ参加者 460名 内宿コミュニティセンター
繁昌 21回 延べ参加者 312名 繁昌地区学習センター

◆元気で～さ～びす館

高齢者の引き籠もり予防及び健康づくりと仲間づくりをとおした交流を図る目的で実施しました。(実施回数 16回 参加者延べ 239人)

◆地域ケア・アドバイザー派遣事業

ひとり暮らし高齢者宅へ訪問調査を行いました。
訪問回数延べ 800人 支援ケース 10ケース
単位老人クラブ運営協力 定例会訪問回数 8回

◆敬老祝賀記念品贈呈事業



給食サービス事業

障害児(者)福祉活動事業

◆夏キャンプ開催(ビックリ・発見・夏キャンプ)

協同生活を体験し、共に社会で暮らしていくために必要なセンスと知識を学ぶことを目的とし開催しました。(参加者延べ 130人 協力団体:アール医療福祉専門学校)

◆障害者ふれあい料理教室

市内に住む障害者の方を対象に、栄養士考案の献立による料理教室を通して、食事を通しての健康づくり及び仲間づくりを行いました。(11回開催 参加者延べ 176人)

◆家族会等の支援事業・のびのびサポート事業

長期休暇中の障害児のストレス軽減をはかるとともに、地域での生活の充実と交流を推進し、心身の発達と生活の豊かさを醸成する。また、保護者の家庭育児・介護の軽減を図り潤いある家庭生活に寄与することを目的とした事業を実施しました。

児童福祉事業

◆子育てサポーター事業

「子育てサポーター」(子育てサポーター養成講座修了者)と「利用者」(子育ての支援を必要とする人)が登録をし、子育てサポートセンター調整のもとに子育ての相互援助活動を行いました。(利用登録会員 27人 保育サポーター登録会員 17人 延べ利用者数 3人)

母子・父子福祉事業

◆ひとり親家庭ふれあい交流事業

ひとり親家庭の親子のふれあいを支援することにより、母子・父子福祉及び児童福祉の増進を図ることを目的とし実施しました。(主催 行方市母子寡婦福祉会)

ボランティア活動推進事業

◆ボランティアセンター運営事業

ボランティア活動をやってみたい方や必要としている方の相談に応じ、情報提供・育成・アドバイスを行いました。
団体登録 38 団体 701 人 個人登録 105 人 合計 806 人

◆ボランティア活動支援

各種事業等へボランティアの派遣・斡旋を行いました。

依頼件数 41 件 派遣ボランティア数 211 人

◆児童・生徒のボランティア普及活動事業

高齢者や障害者の方への正しい理解をしていただけるように、学校等での各種福祉体験・学習の指導及び福祉機器等の貸出を行いました。(福祉体験 27 回)

◆運営委員会の開催



元気で～さ～びす館

地域福祉事業

◆福祉車輛貸出事業

外出困難な障害者や高齢者及びその家族、またはボランティアへ、車イスごと乗り降りできる福祉車輛の貸出を行いました。(52 回貸出)

貸付資金事業

◆生活福祉資金貸付制度(茨城県社会福祉協議会より事務委託)

低所得者や高齢者、障害者の生活を経済的に支えるとともに、その在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的としており、この制度は、国の制度で、茨城県を通じ茨城県社会福祉協議会が本会を窓口を実施するものです。(貸付件数 3 件)

福祉団体の育成及び支援

老人クラブ連合会・ボランティア連絡協議会・身体障害者福祉協議会・母子寡婦福祉会・遺族会等の事務局運営支援を行いました。

在宅福祉サービス・在宅生活支援事業

◆福祉機器等貸出事業

疾病やけが、障害者及び高齢者の方など一時的に福祉機器が必要となった方に機器の貸出を行いました。(車イス 54 回 介護用ベット 5 回 エアーマット 2 回 歩行器 2 回 松葉杖 2 回)

◆地域ケアシステム推進事業

サービス調整会議 2 回 サービス調整クイック会議 7 回

検討ケース 7 ケース 在宅訪問数 14 回 研修会コーディネーター等 1 回

◆在宅福祉サービスセンター運営事業

日常生活を営むのに支障のある高齢者や社会的支援の必要のある障害者(児)をもつ母子家庭及び父子家庭に対し、日常生活における家事援助等を行う事業です。(移送サービス 4,022 件)

◆在宅リハビリアドバイス事業 理学療法士による訪問調査・指導

病気やけがにより、日常生活に支障をきたした方に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的な動作能力の向上をはかる身体的なリハビリを在宅で取り組むための注意や身近な改善方法をアドバイスする事業を実施しました。(実施回数 12 回 延べ利用者 24 人)

◆在宅言語等リハビリアドバイス事業 言語聴覚士による訪問調査・指導

思った言葉がなかなか出ない、間違った言葉が出てしまう、飲み込みに問題が生じたり、食事のための動作が難しくなった等の障害をもつ方に対して指導・訓練を行いコミュニケーション能力を向上させる事業です。(実施回数 12 回 延べ利用者 60 人)

◆軽度生活援助事業(受託事業)

在宅のひとり暮らし高齢者等に対し、軽易な日常生活上の援助を行いました。(利用者 98 人)

◆日常生活自立支援事業

自分ひとりで契約などの判断をすることが不安な方やお金の管理に困っている方などに安心して生活を送れるように、福祉サービスの利用援助や代行、福祉サービスの利用料の支払などを行いました。(利用者 5 人)

◆給食サービス事業

在宅の高齢者等で食事作りが困難な方に、栄養のバランスを考えた食事をご自宅にお届けしながら、声かけや安否の確認をしました。

●麻生地区 毎月 2 回 延べ 1,267 食 協力者 給食ボランティア

●北浦地区 毎月 3 回 延べ 1,324 食 協力者 ボランティアグループさわやか・北浦地区食生活改善推進員

●玉造地区 地区ごとに不定期 玉造地区 協力者 よもぎ会 会食型 3 回 延べ 24 食

立花地区 協力者 ひだまり 会食型 2 回 配食型 3 回 延べ 143 食

介護保険事業

◆居宅介護支援事業

指定居宅介護支援事業所の運営を行い、介護支援専門員によるケアプランの作成・利用者のサービス提供相談、訪問助言指導・介護保険認定調査を行いました。(プラン作成数 介護 1,661件 予防 426件)

◆訪問介護事業

指定訪問介護事業所の運営を行い、ホームヘルパーの派遣(家事援助、身体介護)・サービス内容の相談を行いました。(利用者数延べ 1,460人)

障害福祉サービス事業

◆居宅介護サービス事業

指定訪問介護事業所(自立支援法)の運営を行い、障害者(身体・知的・精神)への身体介護・生活支援サービスを行いました。(利用者数延べ 347人)

地域生活支援事業

◆障害者相談支援事業

◆障害者移動支援事業(ホームヘルパーの派遣) (利用者数延べ 57人)

◆障害者地域活動支援センター事業(ドリームハウス)

障害のある人が通い、創作的活動又は生産活動の提供、社会との交流の促進等の便宜を図ることを目的とした事業です。(利用者数 29名)

共同募金事業

◆赤い羽根共同募金運動

10月1日より全国一斉に赤い羽根共同募金運動が展開され、行方市でも戸別募金・学校等募金・イベント募金・設置募金・職域募金・街頭募金を実施しました。(募金総額 4,815,095円)

◆歳末たすけあい運動

市内全域において、高齢者世帯・障害者世帯の方々を対象に安心して新年が迎えらるることができるようシルバー人材センター等による家事援助サービスを実施しました。
(掃除5件 草刈26件 障子張り43件 網戸張り35件 簡単な修理9件 布団乾燥サービス2件)

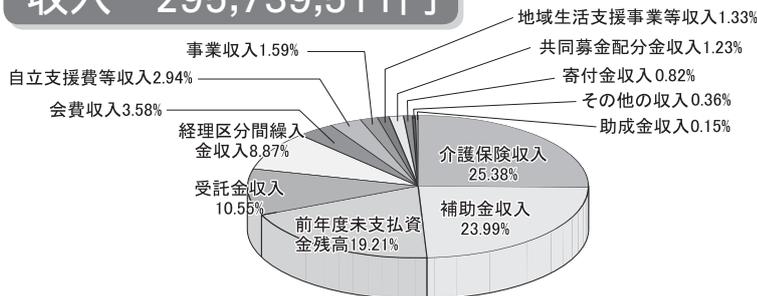
新公共交通システム事業

利用者の予約により目的地まで乗合で送迎するタクシー(デマンド型乗合タクシー)の運行をしました。(登録者数 2,564人 利用者数延べ 12,744人)

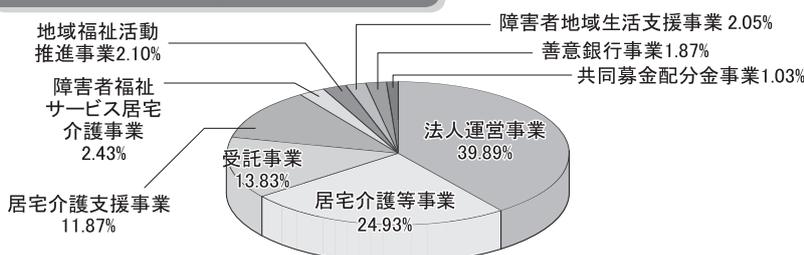
北浦荘管理運営事業

平成21年度決算報告

収入 295,739,511円



支出 250,321,406円



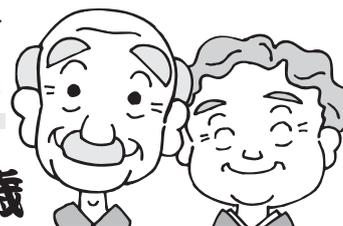
単位：円

介護保険収入	75,051,665
補助金収入	70,952,000
前年度未支払資金残高	56,866,821
受託金収入	31,199,604
経理区分間繰入金収入	26,211,307
会費収入	10,582,000
自立支援費等収入	8,665,856
事業収入	4,729,381
地域生活支援事業等収入	3,915,555
共同募金配分金収入	3,651,894
寄付金収入	2,434,579
その他の収入	1,049,169
助成金収入	429,680
合計	295,739,511

単位：円

法人運営事業	99,829,863
居宅介護等事業	62,399,885
受託事業	34,626,040
居宅介護支援事業	29,724,450
障害者福祉サービス居宅介護事業	6,068,736
地域福祉活動推進事業	5,261,405
障害者地域生活支援事業	5,150,505
善意銀行事業	4,677,315
共同募金配分金事業	2,583,207
合計	250,321,406

いきいき長寿者紹介



関戸運喜さん（行方市籠田）103歳



訪問すると、関戸さんは日課でもある、にわとり小屋の掃除をされていました。この時期は、毎朝5時には起床し、涼しい時間帯に草刈等を行っているそうです。作業をする際には、30分作業をしたら30分休憩をするというように、自分の体に負担がかからないように行い、日中は無理な作業は行わないことを徹底していらっしゃるそうです。

「元気の秘訣は」と聞きますと、「良いと聞いた事は進んでやること、悪いことは絶対にやらないことだな」「あと年齢は関係なく、明るく前向きに過ごすことが秘訣かな」と話してくれました。

関戸さんは、月2回デイサービスに通っており、そこで大好きなカラオケをしたり、友人と話をしたりすることが楽しみで、「この前デイサービスの遠足で、茨城空港を見てきたんだが、あれはすごいな。感動したよ」と楽しそうに話してくれました。

また、現役で車の運転をされているそうで、お聞きしてみると市内をはじめ潮来や佐原あたりまでなら運転するそうです。車の運転について、「私は昭和5年5月から運転免許を取って運転しているが、今起こっている交通事故は自分の中では考えられない事故ばかりだ」「自分のことばかり考えているから、事故を起こすのだ」「相手のことも考えた思いやりが必要だ」と厳しい表情で話してくれました。続けて「自分の頭を使って判断し、歩行者や自転車の事を考えて運転をしなければいけない」「〇〇だろうということは、危険が潜んでいるものだ」「私は天候や時間帯を考えて運転を控えたりもしているんだよ」と話をしてくれました。

関戸さんは最後に、「これからも、無理はせずに自分のことは自分で行い、決めたことは必ず実行して健康第一に生活していきたい」と話してくれました。

このように、年齢に関係なく自分の考えや決断したことを実行していくことが、関戸さんの元気の秘訣なのだと思います。

これからもいつまでもお元気に過ごされることをお祈り申し上げます。



行方市ボランティア連絡協議会総会及び研修会

会長 菅澤トコ

平成22年6月30日(水)行方市ボランティア連絡協議会総会が、北浦保健センターふれあいホールに於いて、101名の出席者をもって開催されました。

行方市ボランティア連絡協議会は、団体37グループ・個人105人、総勢754人の会員により構成されています。協議会では各地区で活動するボランティア団体及び個人の方が連携を図り、同じ社会で生活している人々がみんなで支えあい、心豊かにふれあう住みよいまちづくりを目指すことを目的として活動しています。1人1人の出来る事は小さな事かもしれませんが、754人の力が結集されると色々なボランティア活動が出来ることと考えております。

今回の総会に於いて会長という重責を仰せつかり身の引き締まる思いです。会長1人では何もできません、会員皆様の御支援御協力があってこそ成り立ちますので今後共よろしくお願い致します。

総会終了後には、高齢化社会を迎え認知症の方が増える中で、地域で考えていかなければならないという思いから、“認知症の方を地域のみんで支えよう”というテーマで、北茨城市地域包括支援センターの鈴木京子様のご講話と北茨城市社会福祉協議会職員の皆様等による「劇団えがっぺ」の寸劇を見学させていただきました。とても引き込まれる内容で、認知症の方との接し方等色々学ぶことができました。会員の方も実のある研修になったことと思います。この研修会で学んだことを生かし、より充実したボランティア活動を行っていきたいと思います。



講話より

あなたも認知症サポーターとして地域を支えよう!!

サポーターは「なにか」特別なことをやる人ではありません。

まず、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることがスタートです。そして一歩進んで地域や職場で、認知症の人が困っている様子が見えたら「何かお手伝いすることがありますか」と一声かけてみましょう。たとえ、具体的な援助はできなくても理解者であることを示すことができます。

認知症の人の症状

脳の細胞が壊れることによっておこる記憶障害、見当識障害、理解・判断力の低下、又、うつ状態や妄想などの症状があらわれます。

家族

あわてず、一歩下がって観察し、いつ、どこで、何が起こったか記録します。

支える

サポーター

安心して生活ができる

予防

- ・ 1日30分の昼寝
- ・ 仲間と楽しむ
- ・ 興味をもつ
- ・ 青魚、果物、野菜をとる
- ・ 役割、生きがいをもつ
- ・ 家族と暮らす

認知症の人への対応の心得“3つの「ない」”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない

具体的な対応の7つのポイント

1. **まずは見守る**
認知症と思われる人に気づいたら、一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守ります。
2. **余裕をもって対応する**
こちらが困惑や焦りを感じていると、相手に伝わります。自然な笑顔で応じましょう。
3. **声をかける時は1人で**
複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ1人で声をかけます。
4. **後ろから声をかけない**
一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。「何かお困りですか」「お手伝いしましょうか」など
5. **相手に視線を合わせてやさしい口調で**
体を低くして視線を同じ高さにして対応します。
6. **おだやかに、はっきりした滑舌で**
高齢者は耳が聞こえにくい人が多いので、ゆっくりとはっきりした滑舌を心がけます。その土地の方言でコミュニケーションをとることも大切です。
7. **相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する**
認知症の人は急かされるのが苦手です。同時に複数の問いに答えることも苦手です。相手の反応を伺いながら会話しましょう。相手の言葉をゆっくり聴き、何をしたいのかを相手の言葉を使って推測・確認していきます。

あなたもサポーターとして始めませんか!

ひとりでも多くの方が認知症の人や家族の応援者となって、安心して暮らせる町づくりを市民の手で展開していきましょう!

✿✿ 緑ヶ丘区三世代交流 ✿✿

玉造地区緑ヶ丘区では、平成17年より社会福祉協議会の呼びかけにより三世代交流会を開催しております。開催にあたっては、緑ヶ丘区・ひまわり会(老人クラブ)・子ども会・地元の有志の方により、準備や当日の運営も行われております。

今年度は平成22年7月19日(月)に榎本地区農民研修センターにおいて約70名の参加のもと緑ヶ丘三世代交流会が開催されました。

午前の部は、ひまわり会会員の指導による、折り紙を使っての七夕かざりづくりを行い、子どもたち・保護者の方・ひまわり会会員の三世代の交流が行われ、参加者からは「難しいところもあったけど、わからないところはおじいちゃんおばあちゃんに教えてもらいながら楽しくできた」との声も聞くことができました。

昼食は、地元の有志の方々による、カレーライスが参加者へ振る舞われ楽しく食事をとることができました。

午後の部では、低学年にはボランティアグループ「四つ葉会」による、紙芝居等の読み聞かせ会を行い、高学年にはNPO法人わくわくニュースポーツクラブ所属でひまわり会会員でもある、森昭ご夫妻によるニュースポーツ体験を行いました。

最後は、子ども会主催による映画会も行われ、三世代で1日楽しく過ごすことができました。

この他にも緑ヶ丘区では、毎週日曜日の午前中に榎本地区農民研修センターの一室を「みどりがおか図書館」として解放したり、夏休み中には日中子ども御輿が区内を回り、夜からは盆踊りや花火大会等を行っている緑ヶ丘ふれあいまつりの開催や、秋には区民運動会を実施したりなど、区民の交流が図られています。



どっちが勝ったかな？



読み聞かせ会の様子。真剣です。



七夕かざりはきれいにできたかな。

障害者地域活動支援センター「ドリームハウス」

「ドリームハウス」では、利用者の方々と共に調理実習を行っています。調理に関する食材の買い出しから調理・配膳・後片付けを行います。一連の流れをそれぞれ分担しひとつのものを作り、みんなで味わうことのできる調理実習は、集団での生活の中により一層の深い絆を生むことができます。みんなで囲む食卓は、会話もはずみ食事がいつもよりさらにおいしく感じます。利用者の方々も実習日をとても楽しみにしてくれています。今後も、続けていき自立生活のひとつである「食」についてみんなで学びながらそこから得ることの「喜び」や「楽しみ」をみつけていけたらと思います。



食事後のゲーム



調理実習

ご利用に関してのお問い合わせ等

行方市社会福祉協議会麻生出張所

☎ 0299(80)6661

行方市障害者地域活動支援センター 「ドリームハウス」

〒311-3832

行方市麻生2744-23

☎ 0299(72)0054

第8回 ビックリ・発見・夏キャンプ

8月5・6日に白浜少年自然の家にて夏キャンプを開催しました。今年で8回目を迎え141名の参加者と共に2日間充実した時間を過ごすことができました。障害をお持ちの方が協同生活を体験し、共に社会で暮らしていくための知識を学ぶことをテーマとし、相互に自立・交流・体験する機会を大切にしていくことを目的としています。学校法人筑波学園アール医療福祉専門学校の後援で、理学療法学科・作業療法学科の学生に参加協力頂いています。



行方市母子寡婦福祉社会会員募集

母子寡婦福祉社会とは、母子家庭や寡婦の皆さんが集まって、親睦を深め、語り合い、励まし合いながら、生活の安定向上をめざし、母子寡婦家庭の福祉の増進に寄与することを目的とする団体です。行方市母子寡婦福祉社会では、行方市在住の母子寡婦皆さんに対し、各種事業を推進しております。



母子・寡婦の皆様、会員は随時募集しております。会費は年間1,000円です。母子・寡婦のネットワーク作りのため是非ご入会ください。

●お問い合わせ先 社会福祉協議会 地域福祉係 電話0299-36-2020

いつまでも
いきいき！

年齢を重ねると、ちょっとした体調の変化から、閉じこもり・寝たきりにつながる可能性があります。すこやかに、自分らしく、いきいきと毎日を過ごせるようみんなで楽しみながら体操やゲームなどを楽しみませんか？

社会福祉協議会では、市内各地区で楽しみながら活動できるような介護予防事業を実施しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

【ふれあい広場】

- ・開催日：毎月1回（各地区）
- ・開催時間：午後2時～4時
- ・開催場所：麻生地区・・・麻生公民館
太田地区・・・太田地区館
大和地区・・・小牧集落センター
行方地区・・・西浦学習センター
小高地区・・・小高地区館
- ・開催内容：健康体操・レクリエーションなど

【元気で～さ～びす館】

- ・開催日：毎月2回
- ・開催時間：午前10時～午後3時
- ・開催場所：玉造農村環境改善センター
- ・開催内容：健康体操・レクリエーションなど

【いきいきゼミナール】

- ・開催日：毎月2回
- ・開催時間：午前9時30分～午前11時30分（内宿）
午後1時30分～午後3時30分（繁昌）
- ・開催場所：内宿コミュニティセンター
繁昌学習センター
- ・開催内容：健康体操・レクリエーションなど

※開催日時・詳細については、社会福祉協議会までお問い合わせください。

お問い合わせ先
社会福祉協議会 地域福祉係
電話：0299-36-2020

～皆様の善意をお届けしました～

行方市ボランティア連絡協議会玉造地区委員会が8月7日（土）のふれあいふるさとまつり（商工会主催）において山口・広島県大雨災害義援金に寄与することを目的にチャリティーバザーを実施しました。

皆様のご支援・ご協力により38,800円の売り上げと、38,366円の募金を頂きました。



義援金として広島・山口大雨災害被災地に送らせていただきました。

今後も、充実したボランティア活動の推進に努めて参りますので、更なるご支援・ご協力方よろしくお願い申し上げます。

ホームヘルパーを募集しています。

高齢者や障害のある方への家事や介護をします。介護の仕事に意欲のある方を待っています。

- ・週3～5日勤務できる方（8:00～18:00）
3～6時間のシフト制で希望を考慮いたします。
- ・勤務時間、内容によっては社会保険有
- ・時給 900円
- ・要資格・・・ホームヘルパー2級または介護福祉士の資格保持者
- ・勤務先・・・社会福祉協議会 麻生出張所

詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ先
社会福祉協議会 在宅福祉係
電話：0299-36-2020

社会福祉法人茨城いのちの電話開局 25 周年記念チャリティコンサート

響きあういのちといのち ～明日に絆ぐ～

日時	2010年9月19日(日) 13時開場 14時開演	会場	ノバホール(つくば市)
内容	1部 座談会「みんなで考えよう」 2部 音楽会「こころに響く音楽」	入場料	2,000円(全席自由 定員1000名)
出演者	神津善行 神津カンナ 高橋薫子 三船優子	問い合わせ先	社会福祉法人いのちの電話 事務局 TEL 029-852-8505 FAX 029-852-8355

平成22年度 精神保健福祉ボランティア養成講座

精神保健福祉について知識を習得し、現場の体験や関わりをとおり、精神の障害について理解を深め、ボランティアとして地域で活躍できるための講座です。

対象者	鉾田市、行方市在住の方で講座終了後、精神保健福祉分野のボランティア活動に参加する意欲のある方。	受講料	1,000円(資料代等)
日程	11月2日(火) 11月10日(水) 11月18日(木) 12月16日(木) 講座受講中に施設実習を3日間程行います。実習場所及び日程はオリエンテーション時にお知らせします。	募集人員	約6名(応募多数の場合は抽選となります)
内容	「精神障害者とのかかわりについて」「精神保健福祉の基礎知識」「ボランティア活動について」「施設実習の振り返り」等		・締め切り平成22年10月15日まで ・申し込み方法は、申し込み用紙を支援センターメイプルの窓口にお渡し下さい。
受講場所	鉾田保健センター	◎実施機関	社会福祉法人 誠仁会
		[申し込み・問合せ]	鉾田市徳宿1809-11 社会福祉法人誠仁会 地域活動支援センターメイプル TEL: 0291-36-5684 野村まで

特別会員募集について

平成22年度行方市社会福祉協議会特別会員の募集を行います。会員加入については、一年を通じて受付しておりますが、9月を募集強化月間と設定いたしました。社会福祉協議会の趣旨に賛同いただき今後の福祉活動を支援していただける法人団体等をお願いいたします。

年会費：10,000円(何口でも結構です)

納入方法：社会福祉協議会へ電話連絡をいただければ職員がお伺いいたします。



赤い羽根共同募金運動にご協力をお願いします!!

本年度も10月1日より全国一斉に『赤い羽根共同募金運動』が展開されます。行方市におきましても、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざし、地域の皆様の協力を得ながら、地域福祉の充実・発展のために共同募金運動を展開していく予定であります。

共同募金の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

★共同募金に関するお問い合わせ先★

茨城県共同募金会行方市支会
(行方市社会福祉協議会内)
電話 0299(36)2020





行方市善意銀行

平成 22 年 5 月 1 日から平成 22 年 7 月 31 日まで
に善意をおよせいただいた方々を紹介いたします。
皆様からの善意は行方市のさまざまな福祉活動に使
わせていただいています。

皆さまからの寄付金 (順不同・敬称略)

一般寄付金

預託者名	金額(円)	地区
茂木 一郎	10,000	麻生
一二三会 代表 阿部剛	39,754	玉造
大原 孝	1,200	麻生
奈良崎 正明	60,000	
手賀地区 区長会	20,000	玉造
行方市体育協会ゴルフ部	35,535	
行方市ダンススポーツ部	20,000	
匿名	12,508	
鹿行ハイヤー協会行方支部	30,000	

善意の預託品

預託者名	預託品
有馬 典男	タオル・軍手
東日本カラオケ 振興会	車椅子
小堤 荀吉	車椅子・歩行補助車

ご指定いただいた寄付につきましては、
指定の福祉事業に使わせていただきます。
皆様からの温かいご寄付に心より感謝
申し上げます。

故人のご冥福をお祈り申し上げます。

ご家族のご不幸に際しての寄付

預託者名	金額(円)	地区
樽井 武夫	10,000	北浦
久保 日出夫	10,000	北浦
柏葉 寛	20,000	北浦
矢崎 裕子	10,000	北浦
郡司 良明	10,000	北浦
原田 保男	20,000	北浦
松山 敬治	20,000	北浦
真家庄 一	20,000	北浦
横瀬 賢一	20,000	北浦
青木 幸	20,000	北浦
山崎 次郎	20,000	北浦
鈴木 信之	20,000	北浦

故人のご冥福をお祈り申し上げます。



東日本カラオケ
振興会

行方市体育協会ゴルフ部

奈良崎正明

編集後記

二十一世紀の本格的な少子高齢化社
会を迎え、今後団塊の世代が順次高齢
期にはいり、2050年には2.5人
に1人が65歳以上という超高齢化
社会の到来が予測されております。こ
うした状況の下で、地域の仲間づくり・
高齢者の健康づくり・心の安らぎや充
実感などの受け皿としての、老人クラ

ブ活動は益々その重要性が増してくる
ものと思っています。それには団塊の
世代の若手リーダーの組織での活躍が
必要であります。老人クラブへ加入い
ただき目的達成に精進したいと思います。
すので御協力を御願いたします。

大久保広報委員

広報委員

委員長	城山文男
副委員長	菅澤トヨ
委員	宮河 晃
	大久保守
	菅谷京子
	小貫敏子
	大軒光江
	山崎 實
	石橋展子
	小峰宏信